

ヒロインの魂の成長を描く少女マンガの金字塔

月並みな外見の奥に未知なる才能を隠し持った少女、片や華やかな外見の裏で血のにじむような努力を重ねている少女。演劇界に身を置く対照的なふたりの少女が、幻の名作「紅天女」の主演という同じ目標に向かって、切磋琢磨しながら女優として成長していく。そして…

現在も語り継がれる名作漫画が多く誕生した70年代、ひとつの少女漫画が産声をあげました。漫画家・美内すずえによる『ガラスの仮面』（「花とゆめ」連載）です。

美内すずえ（1951年～）は、高校生漫画家としてデビュー後、『13月の悲劇』（1971年）『はるかなる風と光』（1973年）『妖鬼妃伝』（1981年）などの作品を続々と発表、漫画家として第一線で活躍してきました。

その作者によって生み出された本作は、1976年の開始から30年が経った現在も連載が続く超ロングヒット作品として知られています。

本作の魅力は、主人公の成長、友情、恋愛といった少女漫画における普遍的要素はもちろんのこと、読者を惹きつけてやまないストーリー展開、プロをも唸らせる芸道論、そして魅力的な登場人物たち…と枚挙にいとまがありません。どの角度から見ても魅力的な作品としての充実度、これこそが本作の人気の秘密ではないでしょうか。

それを証明するかのように、本作は各方面で注目され、今日までにアニメ化、舞台化、ドラマ化、さらには作中の演劇が舞台化されるなど形を変えた進化を続け、ファン層を広げました。

30年の間、人々を魅了しつづけてきた『ガラスの仮面』、本展ではその作品世界を原画、場面再現、舞台衣装などの関連資料を用いて立体的に表現します。

この夏、新たな形で進化した『ガラスの仮面』の世界をどうぞご堪能ください。



連載第1回カラー原画「花とゆめ」1976年1月



連載第24回カラー原画「花とゆめ」1977年1月



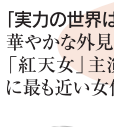
カラー原画 1985年8月

『ガラスの仮面』の登場人物たち



北島マヤ

「やりたい! お芝居をやりたい!」
月並みな外見の奥に未知なる才能を秘めた女優。幻の名作「紅天女」の主演候補。厳しい稽古により眠っていた才能が目覚まし…。



「実力の世界はいいわ…! 本当の自分が認められるから!」
華やかな外見の裏で血のにじむような努力を重ねる女優。「紅天女」主演候補でマヤの最大のライバル。「紅天女」に最も近い女優だったが…。

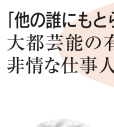


姫川亜弓



月影千草

「紅天女を演じる女優は私がこの手で育てます!」
「紅天女」の上演権を持つ往年の大女優。マヤの才能を発掘。「紅天女」候補をマヤと亜弓に絞り、競わせる。その胸の内は…。



「他の誰にもとられたくない…『紅天女』も『紅天女』の役者も…!」
大都芸能の有能な若社長。「紅天女」に執着している。非情な仕事人間として名高いが、マヤに出会い…。



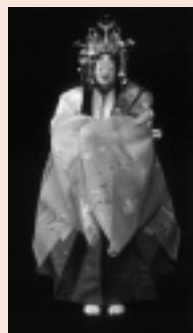
速水真澄



桜小路優

「きみの瞳にうつっているのはぼくじゃない!」
劇団オンディーヌの若手俳優。長年マヤを想い続けているが…。

特別展示



「紅天女」梅若六郎

2006年に国立能楽堂で新作能として委嘱・初演された「紅天女」。
その際使用された装束等を特別展示いたします。

展示期間
7月14日(土)～8月22日(水)

抽選でサイン入り色紙などプレゼント!

会期中、アンケートに答えてくださった方の中から抽選でサイン入り色紙など豪華賞品をプレゼントいたします!

アンケート配布場所:
世田谷文学館展示会場入り口

美内すずえと『ガラスの仮面』展

関連イベント

1. 作者が語る『ガラスの仮面』1

7月7日(土) 18:00～20:00
石笛(いわぶえ) 奏者の横澤和也氏による作中劇「紅天女」についてのトークと実演、地歌舞・源氏舞踊家の古澤侑峯(ふるさわゆうほう)氏による「紅天女」の舞をお楽しみいただきます。

出演 美内すずえ(漫画家)、横澤和也(石笛奏者)、古澤侑峯(地歌舞・源氏舞踊家)

2. 作者が語る『ガラスの仮面』2

7月21日(土) 14:00～16:00
作中に登場するパントマイムのアドバイザーである清水きよし氏をお招きし、トークと実演をお楽しみいただきます。

出演 美内すずえ(漫画家)、清水きよし(パントマイミスト)

3. 新生「劇団つきかけ」作中劇公演

8月11日(土)、18日(土)、25日(土)
14:00～16:00

展覧会期間限定で、主人公マヤが所属する「劇団つきかけ」を結成し、作中劇を上演します。

演目 「石の微笑」「女海賊ピアンカ」などを予定。

緊急告知!

新生「劇団つきかけ」の団員を募集します。

入団テスト 7月14日(土) 14:00～

テスト参加方法など詳細は当館ホームページまたは電話(03-5374-9117)でお問い合わせください。

いずれも¥1000円、中学生以下無料(イベント入場券で企画展もごらんいただけます)/抽選150人(3のみ当日立見あり)
■1は6月29日、2は7月7日、3は各開催日の2週間前(いずれも必着)までに、往復ハガキに①希望イベント(3は日にちも)②住所③氏名④電話番号を明記のうえ、当館「ガラスの仮面展」係まで。連名可。
※ひととき保育あり(5か月～未就学。定員あり。要予約)。
※残席がある場合は、締切後も受け付けます。電話(03-5374-9117)でお問い合わせください。



世田谷文学館
SETAGAYA LITERARY MUSEUM
〒157-0062
世田谷区南烏山1-10-10
TEL(03)5374-9111(代)
FAX(03)5374-9120
http://www.setabun.or.jp/

交通案内
京王線: 芦花公園駅南口から徒歩5分
小田急線: 千歳船橋駅から京王バス(歳23系統「千歳烏山駅」行)「芦花恒春園」下車、徒歩5分

【次回展覧会】

植草甚一
マイ・フェイヴァリット・シングス(仮称)
2007年9月29日(土)～11月25日(日)



SAINT MARC
CRAFTSMANSHIP

厳選された素材から生まれるお料理をカジュアルにそしてちょっと贅沢にお楽しみいただけるサンマルク。

ベーカリーレストラン サンマルク芦花公園店

東京都世田谷区南烏山2-31-26 TEL. 03-5313-7309
年中無休(月～金)11:00～(土日祝)10:00～

会期中、チケット半券をお持ちいただき、お食事をお召し上げりのお客様にホールパンをサービスいたします。